

当施設の健診における生活習慣病の有病率の変化

○桜沢美土里、多治見公高、渡辺和幸、遠藤光恵、松井敏光、河西祐子(公益財団法人郡山市健康振興財団)

各務竹康、福島哲仁(公立大学法人福島県立医科大学)

【目的】郡山市健康振興財団(以下、当施設)の健診における、過去7年間の特定健診の質問票やデータに関わる生活習慣病について、施設健診受診者の健康状態の動向を把握し、保健指導の方向性の示唆とするため、生活習慣病の有病率の経年変化を分析した。

【方法】2013年度から2019年度に当施設の健診受診者のうち、血圧、血糖、脂質の検査を行い、内服有無の情報がそろっている人を対象(延べ45,492名)とした。高血圧(収縮期血圧 ≥ 140 mmHg、拡張期血圧 ≥ 90 mmHg、血圧内服あり)、糖尿病(空腹時血糖 ≥ 126 mg/dl、HbA1c $\geq 6.5\%$ 、糖尿病内服あり)、脂質異常症(LDLコレステロール ≥ 140 mg/dl、HDLコレステロール < 40 mg/dl、中性脂肪 ≥ 150 mg/dl、脂質内服あり)をそれぞれ定義した。年齢区分を40歳未満、40歳代、50歳代、60歳以上に分け、男女それぞれに2013年度の年齢構成を基準人口として各年度の有病率について年齢調整を行った。年次推移について、有病率を目的変数、年度を説明変数として回帰分析を行い、傾向を分析した。

【結果】2013年度から2019年度までの有病率の推移で、高血圧は男性が29.3%から29.0%の変化で有意差なし、女性が14.2%から12.9%の変化で有意差なし、糖尿病は男性が8.4%から11.0%で有意に増加、女性が2.4%から3.6%で有意に増加、脂質は男性が44.8%から43.8%で有意差なし、女性は31.4%から35.1%で有意差なしであった。

【結語】7年の健診を分析したところ、受診者の集団では男女とも有意に糖尿病患者が増加している傾向にあった。全国的にも糖尿病患者数増加しており、厚生労働省によると2017年過去最多となっている。郡山市のある福島県は糖尿病による死亡率が高い。増加している糖尿病の対策は喫緊の課題であることが示唆された。